

第Ⅲ章 趣味のサークル・団体に対する聴き取り調査から

1 聴き取り調査の概要

概に趣味のサークル・団体といってもその対象は、多種多様である。興味や嗜好を同じくする複数の人間が集まり何かをすれば、もうそれは趣味のサークル・団体とみなすことができる。したがって、趣味のサークル・団体が区内にいくつ存在し、活動に参加している区民が何人いるか等を把握することすら難しいのが実状である。こうした中で、趣味のサークル・団体と考えられる区民の活動を最も幅広く捉えているのは、生涯学習の分野であると思われる。そこで、趣味のサークル・団体への聴き取り調査を行うにあたっては、板橋区教育委員会が作成している「生涯学習団体サークル名簿（平成12・13年度版）」に記載されている団体の中から、構成員の年齢等を考慮して3団体を選び出し、その活動の実体を掘り下げて調査することとした。

調査は、各団体の活動内容のほか、活動をとおしてまちづくりや地域環境を問い直すようなことへの取り組み状況、活動していく上での問題点及び行政（区）への要望という観点から実施した。したがって調査結果も、これらの項目に沿って記述することにする。

(1) 和太鼓サークル

高島平地区に拠点を置いて、主に小中学生・高校生を中心に、伝承芸能である和太鼓の演奏をとおして、人との出会いやチームワークの大切さを学び、思いやりのある心身ともに健康な身体をつくることを目的としているサークルである。会員数約80名。

① 活動内容

- ・現在会長が7歳の頃から師事を受けた太鼓演奏の良さを、次世代に伝えていきたいという思いから、平成2年に結成された。当初は地域の子供たち4、5名の活動であった。地域の大人が子供たちのためにできることをやっていきたいという考えが根底にある。
- ・現在の会員は、小中学生・高校生を中心に5歳から62歳までと幅広く、和太鼓の技術の習得を目指すとともに、和太鼓を通じて、健康づくり、体力づくり、仲間づくりに取り組んでいる。

- ・練習は、主として2つの区立小学校を利用して、週3回、習得段階別の5グループに分かれて行われている。会長自らが指導することが中心ではあるが、小さいメンバーにベテランメンバーたちが教える光景も数多く見られる。メンバーとスタッフ間の異年齢交流がこのサークルでは大切なものとなっている。
- ・地域の保育園などで行われるこどもまつりや、町会・自治会、福祉園での夏まつり・盆踊りなどで太鼓の演奏を披露している。また、区の行事にも出演しており、一昨年の年末に行われたカウントダウンイベントや、3月の荒川市民マラソン会場においても太鼓の演奏を披露した。結成以来の演奏回数は、300か所、400回以上に上っている。最近では、出演依頼を受けることが多くなってきた。
- ・部活動と勉強との両立に悩むメンバーも、太鼓に向かい仲間と心をつなぐことで喜びや充実感を味わっている。また、和太鼓を通して創作意欲や自己啓発意識を向上させ、よりよい活動をする事を目指している。

② まちづくりや地域環境の改善への取り組み

- ・和太鼓を通じて子供たちの健全育成に貢献している。特に学年を超えて子供同士が交流したり、大人を含め地域とのふれあいの場をもつことなど、通常では体験できない機会を提供している。
- ・町会・自治会などが主催する盆踊りなどや、民謡コンクールやふれあいステージなどの福祉活動へ参加し、演奏することを通して、地域の人たちが交流することへの手助けとなっている。

③ 活動上の問題点及び行政（区）への要望

・練習場所の確保

通常のサークル・団体でも活動する場所を見つけることは難しいが、その上に活動内容が大きな音を伴うものであることから、練習場の確保には大きな難点がある。最近では、地域での理解も深まり、近隣の2つの小学校の体育館を利用できるようになった。しかし結成当初は、練習場所の確保が大変であった。

・道具保管場所の確保

練習用や本番用の数多くの太鼓を持っているが、それらの器材の保管場所には苦慮している。このサークルでは、ビルの一室を借りて倉庫兼事務所として使用している。太鼓の活動団体の中でもこのように保管場所を確保できているところはあまりないとのことであった。

(2) 子育てサークル

子を持つ親（母親）が集まって、子育てについての情報を交換し、相互に学び合うことを目的としているサークルである。会員数約 20 名

① 活動内容

- ・結成は平成元年 10 月。同年 5～9 月に板橋区成増社会教育会館が主催した「親子セミナー」に参加したメンバーが集まってサークルを結成した。
- ・幼児から高校生までの子を持つ母親が、子供の遊びや友人関係、学校生活、先生、受験、おこずかい、不登校などについて話し合い、相互に相談するなかで、子育てに対する不安の解消を図っている。仲間の子育てから自分の子育てを学ぼうという姿勢に、このサークルの最大の特徴がある。
- ・徳丸区民センターで毎月 1 回定例会を開いているほか、子育て講演会（年 1～2 回）や親子キャンプ（年 1 回）の実施、子育てサークル交流会が主催する「すくすくまつり」、板橋区ともに生きる福祉連絡会の主催する「サークルフェスティバル」に毎年参加している。一昨年は、板橋区が主催した「いたばしボランティアフェスタ」にも参加した。
- ・対象が「子育て」という、誰もがその大切さはわかっているが不安を抱えている内容である点、また親子のつきあいとなる点で、会員同士の絆は相当固いものとなっている。

② まちづくりや地域環境の改善への取り組み

- ・自分の子供のことだけでなく、メンバーの子供たちの行動を見て、気付いたことを親に伝え合うことで、共に補い合い、助け合って子育てに取り組んでいくことを実践している。
- ・区民向けに、子育て講座を開催するなど、子育てを共に考える機会を提供している。
- ・大原社会教育会館で行われている「木曜ボランティアサロン」に参加していて、子育てに関して広く一般の区民からの相談にも応じている。

③ 活動上の問題点及び行政（区）への要望

・活動場所の確保

集会所の利用を毎月申請しているが、取れる回数が少ないのが悩みである。また、小さな子供を遊ばせるには、遊具が必要であるが、それを会合の都度持っていくのは

大変なので、常時置いておける場所があると利用しやすい。

その点、児童館は利用施設としては最適である。最近は児童館を土曜、日曜日にサークル活動に解放するようになってきたことは喜ばしい。学童保育クラブも平日午前中の利用ができるようになってきたので有り難い。

- ・小規模サークルの施設使用料は無料に

集会所等の施設の利用は原則有料となっているが、会員数が10名に満たないサークルでは、それ以上規模団体に比べると施設使用料を捻出することが大変難しいのが実情である。また、このような小さなサークルほど、会員各自が自立的・自発的に行動している場合が多く、現在の一律の使用料徴収は、区民活動の芽を摘むことになりかねない。地域での自主的な活動の支援という意味で、こうした小規模サークルの施設使用料を無料にするなどの助成措置を考えて欲しい。

- ・区が主催する区民講座は無料に

施設使用料の場合と同様、受益者負担の原則から、区が行う講座は原則有料となったが、区が開催する講座に参加したことをきっかけとして、数々の活動サークルが誕生していることも見逃せない事実である。区民の自主的な活動のための環境づくりという面では、区民が各種講座に参加しやすくするために区民講座への参加費用は無料にしたほうがよい。その見返りは将来必ずあると思う。

また、区民講座では、何を学びたいかテーマも参加者に決定させ、話し合い学習を中心とするものがよい。このような講座を受けると、多くの場合その後も仲間を作って活動を続けていく。子育てサークル結成のきっかけとなった「親子セミナー」がまさにこのタイプの講座であった。

- ・サークルや団体間の交流がはかれるような場が欲しい

困った時にあそこへいけば相談できるという場所があればいいと思う。交流センターや支援センターなどを設置して、サークル・団体同士が交流や相談ができるようにしたい。

(3) 老人クラブ

概ね60歳以上の高齢者会員間の親睦と健康づくり、生きがいづくりの増進を目的として活動しているサークルである。会員数57名。

① 活動内容

- ・平成元年3月結成。会員数は区内の老人クラブの中では比較的少ない方（板橋区内の老人クラブ156団体の平均会員数は112名）であるが、ゲートボールをはじめとする健康づくり活動や、手芸、民謡、都内めぐり日帰り旅行などの「趣味のつどい」の活動状況は他のクラブに比べ際だっており、会員の参加率も高い。会合に参加してきた会員には、必ず声を出して（会話を楽しんで）返ってもらうように心がけている。
- ・毎年9月に行われる「敬老のつどい」では、その開催企画・運営を町会から委託されており、地域内の65歳以上のお年寄りを招待している。このことにより新規加入者の確保にもつながっている。その他、町会が行う餅つき大会や夏まつりなどの事業にも積極的に参加し、その一役を担うまでになっている。
- ・地域内や近隣の小中学校との交流にも意欲的で、小学校でのふれあい授業ではゲートボールのコーチを引き受けたり、学芸会へ参加して自慢の声や踊りを披露、また中学校では手芸の指導なども行っている。
- ・区域内の公園や道路清掃のボランティア活動にも積極的に参加している。また、一人暮らしや寝たきりの高齢者の話相手になってあげるという、いわゆる友愛活動の実績により平成13年度、都知事から優良老人クラブの表彰を受けている。

② まちづくりや地域環境の改善への取り組み

- ・老人クラブ内での親睦や健康づくりだけに止まらず、道路公園清掃や一人暮らしや寝たきりの高齢者の話相手になってあげるなどのボランティア活動にも意欲的に取り組んでいる。
- ・地域内や近隣の小中学校との活発な交流を図ることにより、世代間交流を実践している。
- ・町会主催の事業・イベントに積極的に参加している。

こうした取り組みへ駆りたてるものは何かという質問に対しては、「地域のなかでは、多くの人の世話になっているのだから、老人のささやかな力を少しでも地域に役立てたい。また、そうできることは幸せです。」という返事が返ってきた。

③ 活動上の問題点及び行政（区）への要望

- ・活動場所の確保

10名程度の役員会を開くには、地域内のけやき園を利用できるが、それ以上の規模となると集会室を借りるしかなく、その確保がいつも難しい。気軽に利用できる場所をもっと行政が提供して欲しい。

2 総括

今回の聴き取り調査から、それぞれのサークル・団体間で比較的共通していると思われる所をあえて抽出してみると次のようになる。

まず、良く活動しているグループには優れたリーダーが存在することである。聴き取り調査を行ったサークル・団体には、いずれもメンバー間のコミュニケーションの核となって組織をまとめ、先頭に立って活動する魅力的なリーダーが存在した。会長、代表など名称は異なるが、グループの運営は、リーダーの資質に大きく左右されるようである。優れたリーダーのいるところに良い活動が生まれるのは、どんな組織でも同じであろうが、趣味のサークル・団体という比較的少人数のグループにおいては、リーダーの占めるウエイトが大変大きなものとなっている感がある。

第2に、活動を続けていくうちに、関心の目がサークル・団体の外へも向けられていくことである。趣味のサークル・団体は、主として同好の仲間同士での学習、親睦を目的としたものが多いが、活動をしていくうちに、そのなかで培った知識や技術を自分たちの中だけに止めずに、外部の人たちのために活用したいという意識が芽生えてくる傾向にあると思われる。老人クラブが小中学生にゲートボールや手芸を教えたり、子育てサークルが会員外の親の子育ての相談に乗ったりすることは、まさにこのことの現れであるといえる。また、外部との交流を通じて活動意欲がさらに高まるという側面もある。一部には結成時から外部との交流や、対外的な支援などを目的としたサークル・団体もあるであろうが、今回調査を行ったサークル・団体はそのようなものではないことは明らかである。こうした意識を他の団体・サークル活動や地域づくりにうまくつなげていけるような仕組みをつくる必要性を強く感じた。

第3に、手軽に利用できる活動場所が不足していることである。このことは、3つのサークル・団体とも共通して問題としており、行政への要望に掲げている。活動場所の不足には、集会所などの場所それ自体が絶対的に不足していることに加え、予約や申請が面倒であるという利用の不便さという意味合いも含まれている。また、活動を行う際に必要な道具や器材などの保管場所にも、活動場所と同様に困っているという実態がうかがえる。和太鼓サークルでは、ビルの一室を借りて器材置場と事務所として利用していたが、こうした例はまれなケースであり、多くのサークル・団体にとっては活動場所の確保に苦

労しているのが現実である。利用しやすい活動場所の提供は区にとって大きな課題である。